

いのちの言の葉2012

富山県教育委員会平成24年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの授業～東京大空襲の体験から～」

高岡市立戸出西部小学校

平成24年10月25日実施

【授業の概要】

- 1 東京大空襲の経験談
- 2 いただいた「いのち」
- 3 自分の心を見つめる
- 4 いのちの大切さ、
人の役に立つように生きる

【いのちの先生】

白方 美智子先生

・定塚校区社会福祉協議会役員

(お母さんへ) 今日、いのちの勉強でいのちの大切さを白方美智子先生が教えてくださいました。戦争のころのお話もしていただきました。戦争のころは、食べ物は少ししかなく、毎月、お米が配られたそうです。けれども、ひどい時には四日分くらいしかなかったそうです。1945年の3月10日、アメリカのB29という飛行機が爆弾を落として、お母さんや二人の妹が亡くなったり、さらに、手にやけどを負い痛くてさびしくて悲しかったそうです。わたしも自分のいのちを大切に戦争にならないようにしたいです。

(母より) 戦争を体験された人のお話を聞いたのは、今回が初めてだったのではないのでしょうか。日本は、67年前に多くの人が亡くなった戦争が終わり、今はとても平和な国になりました。けれども、世界中には、まだ戦争している国や地域があって子供も大人も大勢の人が亡くなっています。とても悲しいことです。白方先生のお話を聞いて、自分のいのちを大切に戦争にならないようにしたいという〇〇の思いはとても大切です。大人になってもずっと忘れないでください。



(お父さん・お母さんへ) 今日ぼくは、白方先生に戦争のころのお話を聞いたよ。とってもこわかったよ。なぜかというと、バクダンでお母さんと、二人の妹が焼けこげて死んでしまったと聞いたからです。白方先生も大やけどをして、治るのに60～70年かかったそうです。戦争はとってもこわいものです。ぼくたちは平和な時代に生まれてきてとても幸せです。「ありがとう」お父さん、お母さん。自分のいのちを大切にしていきたいです。

(お母さんより) 戦争のお話は、聞いているだけでとてもこわかったね。そんなこわい思いを二度としないように「平和」を守っていかなければいけません。家族を失うことは、戦争であっても、事故であっても、病気であっても、どんな傷よりも痛く、悲しみは一生続きます。自分の命を守ることは、家族を守ることにもなります。自分の心の平和が、家族の平和につながり、国や世界の平和につながるとお母さんは思います。だから、〇〇は自分の平和を守っていてね。お母さんもがんばるよ。